

デジタル人文学作品としての *Howards End*

岩 崎 雅 之

序論

昨今のイギリス・モダニズム研究の代表的なものとして、モダニズムの概念の再検討、メタモダニズム (metamodernism) 研究、またデジタル人文学的アプローチという3つが挙げられる。本稿は、これらに共通して見られる「拡張」というキーワードを足がかりとしながら、デジタル人文学の分野において積極的に用いられているネットワーク・ナラティヴの分析方法を採用し、E. M. Forster 著 *Howards End* (1910) の物語構造を再解釈するものである。*Howards End* の「ただ結びつけよ…」 (Only connect…) というエピグラフは、異なる社会階層間における他者理解を促すものであるが、数理モデルに基づいて分析した場合、従来通りの作品像が浮かび上がってくるのだろうか。この点を検証するために、データによって可視化されたネットワークの中で、主人公の Margaret Schlegel が標榜する「個人的人間関係」——エピグラフと同義のものと理解される——がどのような位置を占めるのかを、これまであまり触れられてこなかった無名の登場人物の紐帯との関連で明らかにする。事実、Forster の代表作の一つとされる *A Passage to India* (1924) では、無名の登場人物が物語内で重要な役割を果たしている。裁判の場面に登場する punkah-wallah は、Forster が初期から描いてきた理想的な肉体の持ち主として登場し、「真実」への道を辿るイギリス人女性 Adela にヴィジョンを与え (205)、Fielding の自宅で催される茶会では、無名の召使いが登場し、人種的「他者」のインドを代表する存在として描かれる (72)。仮に Forster が *Howards End* で無名の登場人物を要所に配置し、そのネットワーク形成によって主題を提示しているのであれば、本作のネットワーク・ナラティヴの分析によって、現代のデジタル・テクノロジーの発達がモダニズム研究をどのように促進するのかを明らかにすることができるだろう。

デジタル人文学研究

21世紀に入り、モダニズム研究の分野ではめざましい変化が生まれている。一つ目はモダニズムという概念を「空間」「時間」「分野」の3方向に拡張し、従来までの

定義の刷新を図るいわゆる「拡張」主義である。その代表格である Susan Friedman は、モダニズムが19世紀末から第二次世界大戦までに限定されるものではなく、例えば中国の唐王朝の時代にも見られた文化現象でもあり、広く歴史を通じて世界中で展開され続けてきたものだとして主張する。¹ 他方、Friedman とは異なる形でモダニズムを拡大的に解釈する研究者に、David James と Urmila Seshagiri らがいる。両者は Ian McEwan や Zadie Smith ら現代作家によるモダニズム作品のリヴィジュアル運動に注目し、それをメタモダニズムと名づけている (94)。James らは現代の小説家たちがポストモダニズムに対する忌避感から、モダニズムへの回帰を見せていると分析する。注目すべきは、研究分野におけるモダニズムの拡大解釈の傾向と、現代作家によるモダニズム作品の翻案とが、ともに拡張というキーワードで切り結ばれているという点である。アプローチこそ違いが、両者が共通して行っていることはモダニズムの現代的価値の再考であると言えよう。

拡張主義やメタモダニズム研究とは異なる手法を用い、デジタル人文学的研究もめざましい功績を残しつつある。デジタル人文学研究は、Modern Language Association による *Literary Studies in the Digital Age: An Evolving Anthology* によって推進されながら、代表的な研究書および論文に Adam Hammond の *Literature in the Digital Age: An Introduction*、Maria Engberg と Jay David Bolter による “Digital Literature and the Modernist Problem”、Jessica Pressman の *Digital Modernism: Making It New in New Media*、Stephen Ross と Jentery Sayers の “Modernism Meets Digital Humanities”、*Journal of Modern Periodical Studies* の特集記事である “Visualizing Periodical Networks”、Claire Battershill の “Collaborative Modernisms, Digital Humanities, and Feminist Practice”、Nikolaus Wasmoen の “Editing Modernism’s ‘Unassailable Data’: Models for Unauthorized Interpretation”、さらに Claire Battershill らによる *Scholarly Adventures in Digital Humanities: Making the Modernist Archives Publishing Project*、Shawna Ross と James O’Sullivan の *Reading Modernism with Machines*、Gabriel Hankins の “We Are All Digital Modernists Now” などがある。今回注

目したいのが、ウェブ存在論 (web Ontology) を展開する Jana Millar Usiskin, Caroline Winter, Christine Walde らである (図1)。Usiskin たちはデジタル・ツールを用いて、作家の人生における個々の要素をリゾーム的に結び付け、個人のアイデンティティの新たな側面と、モダニズムの複数性 (modernisms) を明らかにする。例えば E. M. Forster の場合、小説家であるというだけでなくエッセイストでもあり、また劇作家でもあるという事実が重視される。彼のアイデンティティの多面的性質を理解するために、他の作家や知人との関係も考慮され、長年友人関係にあった Virginia Woolf やその夫 Leonard, Forster の作品を高く評価した Christopher Isherwood、ケンブリッジ大学在籍中に「使徒会」の会員であった哲学者・政治学者 G. L. Dickinson、ブルームズベリー・グループの構成員であった Roger Fry など、ウェブ存在論的ネットワークに組み込まれる。また、注意すべきこととして、ネットワークで結合される個人が特定の芸術・政治運動にかかわっていた場合、間接的にはあるが Forster もかかわりがあるものとして想定される。そのため、ネットワークにおいてはモダニズム、ポスト印象主義、フェミニズムとの関連も表示される。

ネットワーク・ナラティヴ

目下、ウェブ存在論の分析と並行して盛んに行われているのが、ネットワーク・ナラティヴの分析である。この手法は、登場人物が作中で築きあげる紐帯、すなわち人間関係を数値に基づいてネットワーク状に描画し、分析する方法である。もともとネットワーク分析は社会学や生物学などの分野で用いられていたが、近年ソーシャル・ネットワーキング・サービスや論文の引用関係、組織のプロットにも積極的に活用され、同時に、モダニズムのナラティヴ研究でも盛んに用いられ始めている。もちろん、テキスト内部の多様な要素を画一的に定性化・定量化することには問題があるかもしれないが、属人的な解釈を避け、テキストの持つ特徴量を可視化できるといった利点がある。今後、人文学研究の分野においてこの種の研究手法が精緻化されれば、作家や時代毎の特徴量なども抽出することが可能になり、主要な分析方法になる可能性もある。モダニズム作品のネットワーク・ナラティヴ分析の実例は、すでにいくつか存在している。例えば Sam Alexander は、モダニズム作品における登場人物の人間関係を社会的ネットワークとしてとらえ、ヴィクトリア朝期の小説との差異を検出している。彼は Charles Dickens の *Our Mutual Friends* (1864)、Virginia Woolf の *Mrs Dalloway* (1925)、John Dos Passos の *USA* (1937) を比較し、それぞれの特徴をこれまでの研究とは異なる手法で明らかにしている。ここでは議論の都合上、Alexander の行った Woolf と Dickens

の作品研究に説明を限定する。Alexander は作中での登場人物同士の人間関係を形作る属性として発話行為を捉え、Direct、Written、Narratized、Transposed の4つのタイプに分類している。Direct は登場人物同士の直接的会話の形式であり、Written はメモや手紙でのやりとり、Narratized は地の文に登場する会話、Transposed は、例えば物語冒頭で Clarissa Dalloway が Lucy に話しかけるように、応答のないもしくは応答を期待しない発話行為である。

ネットワーク分析はソースとなる要素とターゲットとなる要素をそれぞれ頂点(Node)として表示し、両者の結合を辺(Edge)で示す。図2にある通り、*Mrs Dalloway* の場合、頂点、すなわち計上された登場人物数は47、頂点同士を結ぶ辺、あるいは個々の登場人物によって構築される人間関係の総数は64である。頂点同士の最大距離である直径(Network Diameter)——ある登場人物から一番遠く離れた登場人物までに介在される人物数——は6、密度(Network Density)は0.059である。この数値だけではわかりにくいので、Alexander の行った Dickens の *Our Mutual Friends* の分析結果と比較する。*Our Mutual Friends* の頂点の数は70、辺は221であり、*Mrs Dalloway* と比べるとさらに多くの人物がより大規模な人間関係を築いている。*Our Mutual Friends* の直径はというと、こちらは *Mrs Dalloway* と同じく6だが、密度は0.092と高く、登場人物同士の結合度、言い換えれば登場人物同士が互いの存在を認知する割合が高い。Dickens が緊密な人的ネットワークを用い、社会階層間のつながりを描き出している一方で、Woolf は上流階級の交流を中心に物語を進めながら、広範囲にわたって様々な登場人物と彼(女)らの社会的他者との間に横たわる溝を浮かび上がらせている。

本稿では Alexander の論を参考にしながら、*Howards End* における人的ネットワークを可視化し、独自の分析を加える。まず図3の通り、無名の登場人物も含めたデータ抽出を行う。Alexander のデータセットでは、分析対象は Clarissa Dalloway、Lucy、Hugh Whitbread など固有名詞を与えられた人物のみである。たしかに彼(女)らの人間関係を中心的に分析することで、ヴィクトリア朝期の作品との差異を明示することは可能だろうが、*Howards End* では多くの無名登場人物が要所に登場し、有名な登場人物の人物造形や社会的地位の描写に大きく関与している。そこで本論文では特定の人物のみに固執することなく、作品構造全体の理解を試みる。また、文化資本という面からすると、会話に登場する人物の名前にも重要な意味があるので、言及された歴史的人物や芸術家などの名前もリストに計上する。例えば Margaret の父親である Ernst Schlegel は、Napoleon 3 世を目にしてドイツを去ることを決意するが、このエピソードは彼のドイツ人兵士としての逸話を表すものだけ

でなく、Margaret や Helen などの出生や教育にもかかわるものとして紹介されるため、端的に言及されるだけの Napoleon 3 世にも、決して見過ごすことのできない重要な役割が与えられていると考えられる。また、今回の分析では、Alexander のように人間関係の構築の媒介に発話行為を想定するのではなく、簡潔に Family、Relative、People という 3 つの属性を用いる。これは登場人物間でどのように婚姻関係が結ばれ、あるいは知人・友人関係が築かれるのかということに焦点を合わせるためである。これら 3 つの属性を適用する際に、物語冒頭で設定されている人物関係を基本とするのではなく、最終的に築き上げられる人物関係を参照した。友人・知人の関係はその線引きがはなはだ困難であるので、属性の曖昧な適用を避けるために People というラベルを一括して用いた。

データ抽出に関するその他の注意点は以下の通りである。文脈から判断し、同じ場にいると想定された場合、発話行為が直接的に描かれずとも知人関係などを築くものと判断し、表ではページ数をかっこに入れた。例えば第 9 章の昼食会で、Miss Quested という人物が登場するが、Margaret が彼女の名前に言及するのは昼食が済んでからのことである。Alexander の分析方法に従うと、彼女は他の登場人物と言葉を交わさないため作中に存在しながら存在しない人物ということになってしまうが、彼女が会の冒頭から参加していたと考えるのが自然であって、Margaret のみならず、他の参加者である Mrs Wilcox と People の関係を築くものと理解される。また、無名の登場人物の場合、一般的な名称の意味合いで言及される場合には特定の人物を指すとは考えず、無記載とした。例えば、マーガレットが自分の家の「女中たち」と他の人物に対して述べる場面などがこのケースに該当する。別の注意点として、会話で描写されずとも、互いに、あるいは相手の存在を認識しているであろう場合には、人間関係が構築されるものとした。最終場面における Wilcox 家の人々と、Helen と Leonard の子どもの関係がこの場合に相当する。最後に、登場人物同士が婚姻関係を築いた場合、3 親等までを Relative として計上し、それ以上の距離がある場合は People とした。

分析結果であるが、*Howards End* の頂点（登場人物）数は 191、頂点同士を結ぶ辺は 648、その凝集性を表す密度は 0.0357 である。² 平均距離と直径であるが、これらの値を算出する際に、語り手 (Narrator) と読者 (Reader)、また語り手が読者に対して述べる詩人 Michael Drayton のみが他の登場人物からのネットワークから独立し、正確な算出が困難であるため除外した。残りのネットワークの平均距離は 2.33、直径は 5 であった。ここで *Mrs Dalloway* および *Our Mutual Fiends* と比較してみる。登場人物の計上法が違うため正確な比較にはならないが、ネットワークの規模と性質を知る上で

有益な手がかりを与えてくれる。Woolf と Dickens の作品は直径が 6 であり、*Howards End* と近似しているため、登場人物間の最大距離の設定は三者ともに同程度であると言える。また、平均距離も前二作品は 2.61 と 2.62、*Howards End* が 2.33 であるため、似通った性質を有しているとも言える。しかし、頂点の数は *Mrs Dalloway* と *Our Mutual Fiends* がそれぞれ 47 と 70、辺の数が 113 と 221 であるのに対し、*Howards End* は 191 と 648 であるので、ネットワークが大規模である。*Howards End* の密度は 0.035 であり、*Mrs Dalloway* と *Our Mutual Fiends* の 0.059 と 0.092 よりも低い。したがって、*Howards End* では主要登場人物の交流のみならず、互いにその存在を知らぬ種々多様な人物を介して物語が紡がれていくということになる。言い換えると、直接間接を問わず、Forster が主要登場人物の社会的他者との接触を繰り返し描きながら、彼（女）らの立場と役割を様々な角度から描いているということになる。この点は *Howards End* に特徴的なものであり、同時に Forster 特有の人物描写の手法とも言えるだろう。

Howards End の人的ネットワークで中心的な立場にあるのが、主人公の Margaret Schlegel である（図 4、5）。彼女の持つ次数は 128、媒介中心性は 0.474 である。従来通り *Howards End* は Margaret を中心に展開していると言ってもいいだろうが、Margaret の次に高い数値を示しているのが Leonard Bast である。彼の次数は 63、媒介中心性は 0.218 である。このことはつまり、彼が社会的弱者であるということは多くの登場人物や資本とのかかわりの結果であるということを示唆している。異なる階級に属する人々にとっては、Leonard Bast は「彼ら」のうちの一人に過ぎないが、実際には自らの姿を映す歴史・社会的鏡となっているのである。彼はイギリス社会に住む多くのひとにとって、貧困という社会的問題に関して当事者意識を植え付け得る存在として振る舞う。

その次に位置するのが、Henry Wilcox と Helen Schlegel である。字数はそれぞれ 64 と 62、媒介中心性は 0.117 と 0.115 である。両者の媒介中心性は Leonard Bast の半分程度であるため、階級的に隔たりのある Leonard Bast の方が、社会的に近接している Helen と Henry よりも物語の構成上 Margaret の立場に近い役割を果たしていると考えられる。このことは、*Howards End* が主題の一部とする Henry の体現する帝国主義やナショナリズムの問題も、Leonard Bast 個人との関係だけでなく、彼の親戚やかかわりを持つ無名の人物を含めた人的ネットワーク全体において理解されるべきであるということである。実際、作中に登場する多くの無名の登場人物が、改札係 (Ticket Boy)、駅員 (Porter)、村民 (Villagers)、店員 (Assistant)、御者 (Coachman)、警察官 (Police)、木こり (Woodcutter)、牧師 (Rector)

や女中 (Maid) といった、Leonard と類似の階級に属する職業に就いている者たちである。彼らの次数は 1 ~ 3 であり、媒介中心性も 0.001 に満たないが、帝国主義者である Wilcox 家に労働力を提供し、この一家と不可分の関係にあるため、Wilcox 家と社会が主として資本を媒介として結合していることを明らかにする。

Wilcox 家に対する社会的評価も、無名の登場人物との関係を通して与えられる。第 2 章において、Margaret のおば Juley Munt は、Charles Wilcox がポーター (Porter) や改札係 (Ticket Boy)、服地屋 (Draper) に対して横柄な態度を取るのを見るだけでなく、彼の運転する車の舞い上げる埃が、村民たち (Villagers A) を苦しめる様子も目撃する。一方、その後の Ruth Wilcox の葬式の場面では、多くの無名の村民たちが彼女の死を悼み、彼女の人望がいかに厚かったか、また読者のみならず、家族でさえ知り得なかった彼女の人間関係がいかに広範囲にわたって広がっていたのかということ伝える。

Schlegel 家と Wilcox 家の構築する人的ネットワークを分析する際にあらためて浮き彫りになるのが、結婚制度の重要性である。人的ネットワークを形成するうえで、とりわけ重要な役割を果たしているのが Evie Wilcox と Percy Cahill である。第 XXV ~ XXX 章で描かれる通り、彼 (女) らの結婚式に集う列席者たちは新たな人的ネットワークを作り出す。³ その中で Margaret が Schlegel 家と他家を結びつける重要な結節点となる。結婚によってさらなる苦境に立たされる Leonard とは異なり、Wilcox 家は同階級の家と結婚を繰り返すことで、社会的基盤を強固なものにしていく。この点において、

Margaret の理想的人間関係は、彼女の Henry との関係に見られる通り、繰り返し行われる結婚という行為を通じて達成されるという逆説的な形を示す。図 6 にある通り、*Howards End* においては、家族関係が中心的に描かれながらも、実際にはそれを描写するために数倍にもおよぶ知人や友人、無名の登場人物たちが登場する。この図は、主要登場人物同士の婚姻関係の発生が、社会的に大きな影響力を行使し得るものであることを示唆している。その意味では、個人的人間関係の構築はたしかに個人的ではあるが、同時に非常に社会的行為でもあるということになるだろう。

まとめ

今回のネットワーク分析による描画では、本作の持つ多層的な面を可視化することができ、それによってこれまであまり論じられてこなかった社会的他者の果たす役割の重要性の一端に光を当てることができた。テキストの扱いを変えるということは、作品内に沈黙する新たな層を浮き上がらせるということである。実際、Schlegel 家、Wilcox 家、Bast 家の三つ巴の関係には、より広範な人間関係が結び付けられており、一見端役に思われるような人物であっても、主要登場人物の社会的立場を決定する重要な役割を果たしている。また、主人公 Margaret との近接性がそのまま作中における重要性を意味するわけではなく、むしろ Leonard のように、多くの登場人物にとって心理的にも社会的にも距離のある他者であるからこそ、大きな役割を果たす可能性も指摘することができる。

¹ 拡張を推進する昨今の研究として、Laura Doyle と Laura Winkiel の *Geomodernisms*、Urmila Seshagiri の *Race and the Modernist Imagination*、Jahan Ramazani による *Transnational Poetics*、Peter Kalliney の *Modernism in a Global Context*、また Jessica Berman の *Modernist Commitments* などが挙げられる。

² 今回の分析を行うにあたり、Palladio (<https://hdlab.stanford.edu/palladio/>) を利用した。媒介中心性などの計算結果は、このサイトが算出したデータに基づいている。実際にこのサイトによって算出された結果は以下の通りである。

Number of Nodes	191
Number of Edges	648
Average Degree	6.78534031
Density	0.03571232
Avg. Clustering Coefficient	0.6341223
Transitivity	0.13682021

本文でも述べている通り、直径に関しては語り手たちを除外する必要があったため、別途計算した。データセットは次のリンク先にある。
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1OxSg2o-peF0fnpKL8hndbFEtSp7SLcR/edit?usp=sharing&ouid=106245474181168643984&rtfpof=true&sd=true>

³ この場面に登場するのは、Wilcox 家長男 Charles の妻である Dolly の父 Colonel Fussell、その息子 Albert、親戚の Mrs Warrington Wilcox と娘 Myra Warrington Wilcox、インド帰りの Mrs Plymlymmon と Lady Edser らである。

Works Cited

- Alexander, Sam. "Social Network Analysis and the Scale of Modernist Fiction." *Modernism/modernity*. Vol. 3, cycle 4, 2019. <https://modernismmodernity.org/forums/posts/social-network-analysis/>.
- Forster, E. M. *Howards End*. Edited by Oliver Stallybrass, Penguin, 2000.
- . *A Passage to India*. Edited by Oliver Stallybrass, Penguin, 2005.
- James, David, and Urmila Seshagiri. "Metamodernism: Narratives of Continuity and Revolution." *PMLA*, vol. 129, no. 1, 2014, pp. 87-100.
- Usiskin, Jana Millar, Caroline Winter, and Christine Walde. "From Parallax to Praxis: A Seven-Sided Paper on Dynamic Web Ontologies and Modernist Studies." Vol. 3, cycle, 2, 2018. <https://modernismmodernity.org/forums/posts/parallax-praxis/>.

図1 Jana Millar Usiskin らが描画するモダニストのアイデンティティ・ネットワーク (スクリーン・ショット)
(<https://modernismmodernity.org/forums/posts/parallax-praxis>)

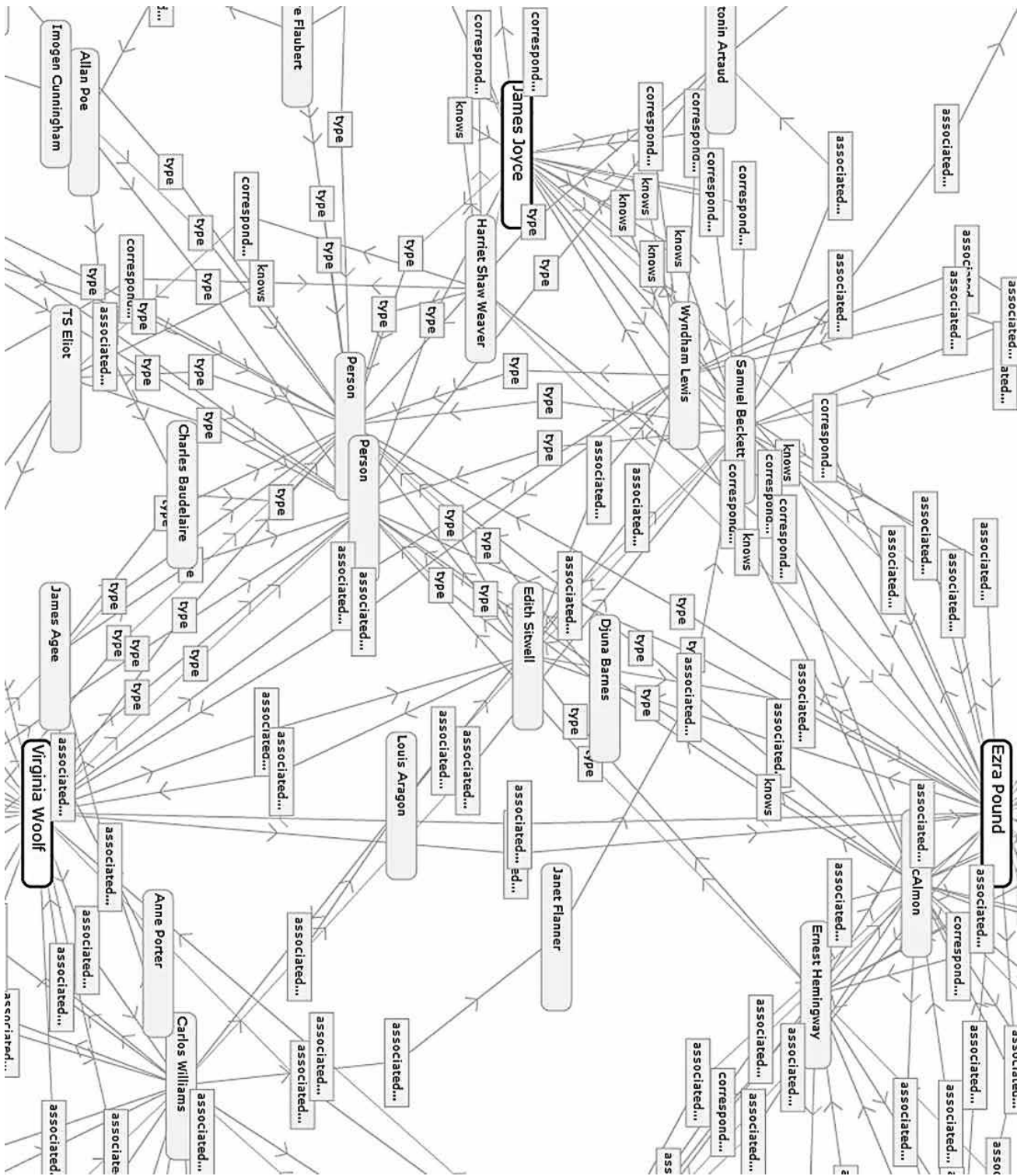


図2 Alexander, Fig. 3. を改訂

	<i>Howards End</i> (1910)	<i>Mrs Dalloway</i> (1925)	<i>Our Mutual Friend</i> (1864-5)
Nodes	181	47	70
Edges	563	113	221
Network Diameter	5	6	6
Average Geodesic Distance	2.33	2.61	2.62
Network Density	0.034	0.059	0.092

図3 *Howards End* 登場人物一覧

No	Name	No	Name
1	MargaretSchlegelMS	31	BrunoLieseckeBL
2	HelenSchlegelHS	32	TheodoreRoosevelt
3	TibbySchlegel	33	JohannesBrahms
4	JuleyMunt	34	JakobMendelssohn
5	HenryWilcoxHW	35	EdwardElgar
6	RuthWilcoxRW	36	JohannWolfgangvonGoethe
7	CharlesWilcoxCW	37	GiacomoPuccini
8	PaulWilcoxPW	38	MissConder
9	EvieWilcoxCahill	39	ClaudeMonet
10	KingsofMercia	40	ClaudeDebussy
11	ArchbishopofSpeyer	41	RichardWagner
12	WalterSavageLondor	42	MissCorelli
13	MaidsofWickhamPlace	43	CharlesRicketts
14	Narrator	44	QueenVictoria
15	Reader	45	FredericLeighton
16	EmilySchlegel	46	JohnEverettMillais
17	ErnstSchlegelES	47	AlgernonCharlesSwinburne
18	TicketBoy	48	DanteGabrielRossetti
19	PorterA	49	GeorgeMeredith
20	Draper	50	EdwardFitzgerald
21	VillagersA	51	MrDealtry
22	LowerOrders	52	MrCunningham
23	Hegel	53	MaudeGoodman
24	Kant	54	JohnRuskin
25	NapoleonIII	55	GeorgeFredericWatts
26	WifeofNephewES	56	EdwardGrieg
27	NephewES	57	JackyBastJB
28	FriedaMosebachFM	58	FriendJB
29	LudwigvanBeethoven	59	BrotherLB
30	LeonardBastLB	60	Gondliers

No	Name	No	Name
61	LondonPorters	100	Bracknell
62	PorterB	101	Annie
63	Mathesons	102	R.L.Stevenson
64	EugèneYsaÿe	103	E.V.Lucas
65	CousineHW	104	ClerksatPorphyriionFireInsuranceCompany
66	DollyFussellWilcoxDFW	105	RichardJefferies
67	AlbertFussellAF	106	GeorgeBorrow
68	BrotherAF	107	HenryDavidThoreau
69	WilliamRothenstein	108	Passersby
70	PeopleatLuncheon	109	Club
71	YoungManatLuncheon	110	DinnerPartyAttendants
72	VeterinarySurgeon	111	Gentlefolk
73	MissQuested	112	FriendsHW
74	ArnoldBöcklin	113	HamarBryce
75	BenjaminWilliamsLeader	114	HenrikIbsen
76	EdwardMacDowell	115	ThomasCarlyle
77	FriendRW	116	PercyCahill
78	Bertha	117	House-Agents
79	Assistant	118	Clergymen
80	Coachman	119	Carver
81	Driver	120	RudyardKipling
82	Policeman	121	HenryFielding
83	VillagersB	122	Emperor
84	Woodcutter	123	Milton
85	MotherWoodcutter	124	GeorgeCruikshank
86	WilliamShakespeare	125	JamesGillray
87	Gravediggers	126	BabyFMBL
88	RectorA	127	Youths
89	Chalkeley	128	Maid
90	Crane	129	BabyACWDFW
91	Penny	130	MichaelDrayton
92	Matron	131	ChildCWDFW
93	Homer	132	MissAvery
94	Mosebachs	133	MrsHoward
95	HerrFörsmeister	134	TomHoward
96	Candidates	135	Sishes
97	MrVyse	136	ColonelFussell
98	Guy	137	MrsWarringtonWilcox
99	MrPembroke	138	MyraWarringtonWilcox

No	Name	No	Name
139	MrsPlymlimmon	168	MenatOxford
140	LadyEdser	169	MrsMartlett
141	LittleGirl	170	Navvies
142	Courier	171	ClergymanMSHW
143	Angelo	172	FrankWedekind
144	Girl	173	AugustusJohn
145	RectorB	174	BabyBCWDFW
146	SirJamesBidder	175	Madge
147	Servant	176	HusbandMadge
148	ChildAnonymous	177	MrMansbridge
149	Burton	178	Monica
150	LittleBoy	179	Tom
151	Servants	180	BernardShaw
152	Band	181	Erinyes
153	ParlourMaid	182	Waitress
154	ServantatWeddingParty	183	Porters
155	Footman	184	BlancheB
156	Maids	185	HusbandB
157	PierpontMorgan	186	LauraL
158	FriedrichNietzsche	187	HusbandL
159	NapoleonI	188	Parlourmaid
160	BluebeardPerrault	189	Landlord
161	ParentsLB	190	Hermit
162	BrotherLB	191	Landlord
163	GrandParentsLB	192	MenatHilton
164	SandroBotticelli	193	Police
165	Bailiff	194	Officials
166	WaitressatGeorge	195	BabyHSLB
167	Gardeners		

図5 *Howards End* のネットワーク (拡大版)

